



聖マリアンナ医科大学東横病院

12月
平成29年
第9号

LINK

地域との
つながりを
大切に
東横連携だより

病院 理念

「生命の尊厳とキリスト教の愛の精神」を重んじ、病める人を癒す、愛ある医療を目指します

「ノックアウト型脳梗塞」という言葉をご存じでしょうか。主に心房細動が原因で発症する心原性脳塞栓症は、突然太い脳血管が閉塞して重症脳梗塞となることが多く、このような名称で呼ばれるようになりました。「ノックアウト型脳梗塞」は一度の発症で死に至ったり、重い後遺症を残して寝たきりになってしまうことも少なくありません。

tPA 治療でもあまり効果の期待できないこの重症脳梗塞、すなわち脳主幹動脈閉塞を伴う急性期脳梗塞に対して、近年複数の国際共同ランダム化比較試験にて「脳血栓回収療法」の有用性が証明されました。これはステントリトリーパーという血栓回収器材で脳内の血栓を直接回収して、閉塞血管を再開通させるカテーテル治療です。血栓回収療法による再開通率は80%以上です。本治療をできる限り早期に行うことによって、たとえ「ノックアウト型脳梗塞」

であっても、後遺症なく退院できる可能性が高まりました。

2017年9月には日本脳卒中学会の脳卒中治療ガイドライン2015「2017追補」が発表されました。そして内頸動脈または中大脳動脈(M1部)閉塞に対して、tPA 静注療法に加えて発症6時間以内にステントリトリーパーを用いた血栓回収療法についてグレードAで強く推奨されました。そこで、本邦各地でtPA治療や血栓回収療法を普及させる取り組みが行われ、急性期脳卒中の救急搬送システムの見直しが行われています。

神奈川県下でも多くの施設で本治療が行われるようになりましたが、血栓回収療法に関する確立された搬送システムは存在せず、かなりの地域格差があるのが実情です。東横病院脳神経・脳卒中センターでは、脳血管内治療専門医4名と共に24時間365日、本治療を施行できる体制を有し、地域医療に貢献できる体制を整えています。



聖マリアンナ医科大学
東横病院
副院長
脳神経・脳卒中センター長
植田 敏浩



東横病院・聖マリアンナ医科大学病院・ ブレストイメージングセンター間での 放射線画像相互参照開始のお知らせ

放射線科 医長 北中ゆき

聖マリアンナ医科大学は、1) 大学病院、2) 横浜市西部病院、3) 川崎市立多摩病院、4) ブレストイメージングセンター、5) 東横病院（当院）の5つの病院で診療を行っています。2017年11月1日より、この中の大学病院、ブレストイメージングセンター、東横病院間での放射線画像の相互参照連携を開始いたしました。東横病院は、主に消化器外科、消化器内科、脳神経外科、脳神経内科、循環器内科、代謝内分泌内科医が常勤医として勤務し、腫瘍内科、心臓血管外科、リウマチ内科、肝臓内科が非常勤医として勤務しています。このため、当院で発症した婦人科疾

患、呼吸器疾患などで対応に困ることもありました。しかし、11月1日より、放射線画像が大学病院やブレストイメージングセンターと連携したため、東横病院で撮像した画像をこれらの病院に勤務する医師に電話をかけることにより、その医師の電子カルテから撮像直後より画像を同時に確認しながらコンサルトすることが可能となりました。東横病院は、大学病院やブレストイメージングセンターとの連携を進めることにより、患者様により良い医療及びより良いサービスを提供していきたく思っております。これからもよろしくお願いいたします。

平成29年11月現在

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
消化器外科	セカンドオピニオン (16:00~) 古畑 智久	腫瘍内科 (AM・PM) 小倉 孝氏	肥満外科外来 (PM~15:00) 佐々木 貴浩 ヘルニア外来 (PM15:00~) 佐々木 貴浩			
肝臓内科		肝臓疾患外来 (PM) 佐藤 明			肝臓疾患外来 (第2・4 PM) 肝臓専門医交代制	
循環器内科		SAS 外来 (PM) 吉田 浩幸		SAS 外来 (第2,4,5 PM) 吉田 浩幸	SAS 外来 (PM) 関塚 宏光 ペースメーカー外来 (PM) 徳丸 睦	禁煙外来 (AM~10:00)
失神センター 失神外来	(PM) 高木 泰	(PM) 高木 泰	(PM) 古川 俊行	(PM) 古川 俊行	(PM) 米山 喜平	(AM10:00~) 古川 俊行 高木 泰
心臓血管外科				心臓血管外科 兼 下肢静脈瘤外来 (第2・4PM)		
脳卒中科	セカンドオピニオン (15:00~) 植田 敏浩		脳血管内治療 (AM) 植田 敏浩	脳血管内治療 (AM) 高田 達郎 頭痛外来 (PM) 臼杵 乃理子	物忘れ外来 (PM) 徳山 承明	
脳神経外科	脳外科 / ボツリヌス治療 (AM) 小野 元	脳外科 / ボツリヌス治療 (AM) 小野 元			脳外科 / ボツリヌス治療 (AM) 小野 元	
代謝・内分泌内科	CGM外来 (10~12時) 清水 紗智		CGM外来 (10~12時) 大森 慎太郎			
リウマチ内科	(AM) 岡崎 貴裕					

診療 AM 8:30~11:00
受付 PM 13:30~16:00
時間 土曜日は第2、4、5の午前中のみです

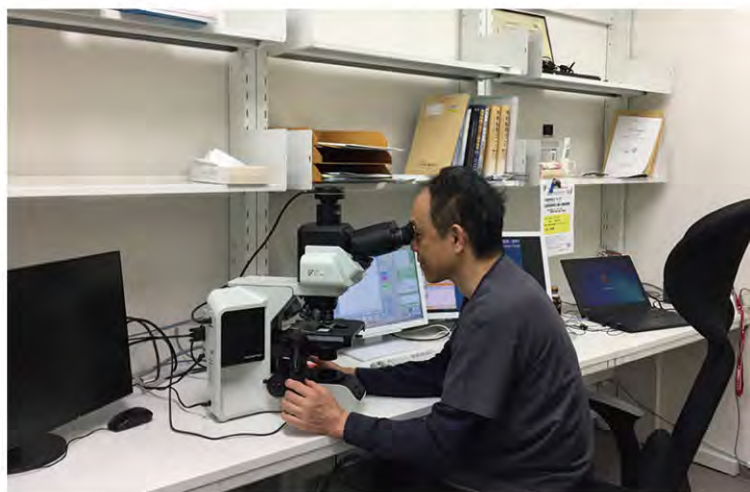
*専門外来は基本的に事前予約制になっておりますのでご了承ください

病理診断科の業務について

病理診断科 部長 小泉宏隆

本年 4 月に東横病院に病理診断科が新設されました。それまで当院の病理診断は、聖マリアンナ医大・病理学教室に委託されてきましたが、内視鏡検体、手術材料や術中迅速診断の増加に伴い、自前の病理診断科が設立される運びとなりました。数年前まで、わが国の病理診断は“病院病理部”や“病理検査部”などと呼ばれる診療協力部門で行なわれていましたが、平成 20 年より「病理診断科」の名称が標榜診療科として認可されました。当院の組織図でも病理診断科は内科や外科と並ぶ診療科に位置しています。また、病理診断科に病理医が常勤することは診断精度の向上に繋がることから、病理診断管理加算の算定もできるようになりました。

当院で行なっている病理業務は、①生検組織診断、②手術で摘出された臓器の診断、③手術中の迅速診断、④細胞診断、⑤病理解剖に分けられます。検体の多くは消化器病センターから提出される生検組織、内視鏡的切除標本あるいは手術材料で、女性検診センターからの婦人科細胞診検体がこれに続きます。また、当院では消化管腫瘍の内視鏡的粘膜下剥離術（ESD）例が多いのが特徴です。東横病院では病理診断科の開設により、以前より 2 日ほど早く診断結果を報告することが可能となりました。質の高い病理診断を地域の皆様に提供できるよう、日々尽力させていただくつもりです。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



緊急のご紹介について

当院は救急指定病院として地域住民や地域医療に貢献すべく、各センターがホットラインを備え、救急隊や近隣の医療機関からの要請に対し24時間365日体制で的確な診断、迅速な治療を行うための体制を整えております。

医療機関専用・各センターホットライン（医師直通）
各センターの医師が直接対応いたします（24時間）

脳神経・脳卒中センター **080-5498-9536**

心臓病・失神センター **080-5498-9493**

消化器病センター **080-5498-9516**

救急外来 連絡先

TEL: **044-722-2121** (代表)

救急外来 FAX

FAX: **044-722-1771** (救急外来)

通常の診療・検査予約

TEL: **044-722-2216**
(医療機関専用・連携室直通)

・まずお電話にてご希望日時の相談を賜り仮予約をお取りいたします

FAX: **044-733-6658**
(医療機関専用・連携室直通)

・仮予約後、紹介状（FAX用）をFAX送信してください

・本予約後、予約票を返送いたします
※原則30分以内に返送いたします

電話・FAX対応時間

平日 8:30～17:00
土曜日（第2,4,5）8:30～12:00

※FAXは24時間稼働しておりますが、時間外のFAX返送対応は、翌日又は休診日明けとなりますので、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

お知らせ

平成29年度 聖マリアンナ医大東横病院 医療連携講演会年間予定

隔月 第4木曜日 19:30（講演は19:45開始）

場所 当院管理棟 5階カンファレンスルーム

月日	センター	担当医	演題名
11月30日	脳卒中	吉田 泰之	高齢者の脳腫瘍
	消化器	嶋田 仁	虫垂炎とヘルニアの最近の治療
1月25日	生活習慣	大森 慎太郎	持続糖濃度測定器(CGMS)の血糖変動で見た Weekly GLP-1 受容体作動薬の効果
	心臓	米山 喜平	心臓の画像と治療
3月22日	消化器	吉田 良仁	当院の内視鏡治療関連
	脳卒中	植田 敏浩	脳主幹動脈狭窄症に対する脳血管内治療の現状

聖マリアンナ医科大学東横病院

〒211-0063 神奈川県川崎市中原区小杉町 3-435

TEL:044-722-2121 (代表)

TEL:044-722-2216 (医療機関向け・連携室直通)

FAX:044-733-6658 (連携室直通)

編集
後記

2017年も残り僅かとなりました。

本年も開業医の先生はじめスタッフの方々には大変お世話になりました。LINKを通して、当院の情報をお届けすると共に、より良い地域連携に貢献できたらと考えております。

本年最後のLINKとなりますが、来年も引き続き定期発行してまいりますのでどうぞ宜しくお願い致します。(M・K)

東横病院

検索

平成29年12月第9号発行 発行元：医療支援・連携室連携便り編集委員